

池田草庵先生に学ぶ会 令和六年七月六日

(担当 守本 和田 哲彦)

與姪盛 (三)

嗟乎茫々天下、

實志此道者幾人、汝宜自努力、

読み

嗟乎茫々天下、實に此道を志すもの幾人か

汝宜しく自から努力すべし

訳

ああこの広い天下、実際に此道を志すもの幾人あるだろうか、
お前は、自分で努力するのがよい。

言葉

天下世の中

茫々ボウホヴ 広々としたはるかなさま

實ほんとうに じつさいに

我平生愛汝者、不爲不深、

而期汝者、不爲不遠、

汝之身宜自重、

読み

我平生汝を愛するは、深かかるざる為さざる、

而して汝に期するは、遠からざる為さざる、

汝の身宜しく自重すべし

訳

私が普段お前を愛するのは、深いものがある

お前に期待していることは、遠からず何かを為すことだ。

お前の身は自重すべきである。

言葉

宜「よろシク(す) ベシ」、「(する)のがよい」

者「文末につけて命令の語気をあらわす言葉(は、には)、

爲「ナす 作り上げる うまく仕上げる

不爲不遠「？遠からずなす？、

汝之志宜_二自保_一、

汝之春秋宜_二自愛惜_一、

不_二及_一時而勉_レ後噬_レ臍何益、

読み

汝の志宜しく自から保つべし、

汝の春秋宜しく自から愛惜すべし

時に及んで勉めざれば、後に臍^{ほぞ}を噬^かみ何んぞ益せん、

言葉

春秋〓春と秋 年月

噬_レ臍〓悔いても及ばぬ事のたとえ、口がへそに届かないことから、今さら仕方がないことを後悔することのたとえ

噬〓カム かみつく 臍〓ほぞ へそ

訳

お前の志を自分で大事に持ち続けよ。

お前の年月を自分で大事に惜しんでいくこと、

なすべき時に、勉めなければ後で後悔して何の益があるうか。